

エンジニアリングシンポジウム 2022

完了報告書

一般財団法人エンジニアリング協会

2022年のエンジニアリングシンポジウムはコロナ感染下で開催される3回目のシンポジウムとなりました。

かねてから要望の大きかった会場開催と同時並行でのウェビナーでの開催を初めて実現することが出来、参加申込は53社/469名と、昨年に比べて17社/100名の増加となりました。

また、3年ぶりに開催した交流会では、感染症対策のために飲食物のご提供が出来なかったにも関わらず、会場参加者の8割の皆様にご参加いただき、多業種に亘るエンジニアリング関係者が年に一度一堂に会して交流する貴重な機会となりました。

シンポジウム全体の評価として、「非常に良かった」と「良かった」の評価を合わせて100%の方から肯定的な評価を頂くことができました。

以下に2022年のエンジニアリングシンポジウムの概要を報告します。

概要写真



講演Ⅰ. 東京大学 北澤教授



講演Ⅱ. 国際環境経済研究所 塩沢主席研究員



講演Ⅲ. 塩野義製薬(株) 手代木会長・CEO



午前の部；エンジニアリング功労者表彰プロジェクト



日揮グローバル(株) 小澤様



(株)Jバイオフーズリサイクル 蔭山様



エンジニアリング協会 山東 理事長挨拶



司会の前野専務理事





会場の日本教育会館外観



開催当日の日本教育会館入り口

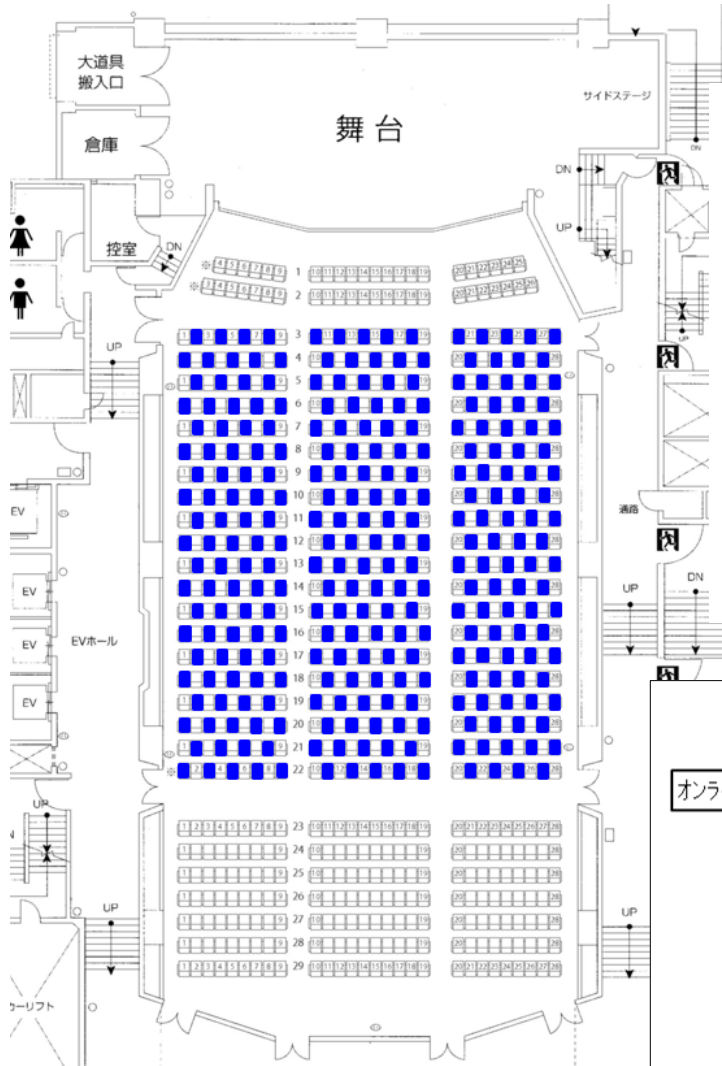


日本教育会館 1 階に設置した
受付（左）

タブレット式の発熱チェック
機を受付前に設置。

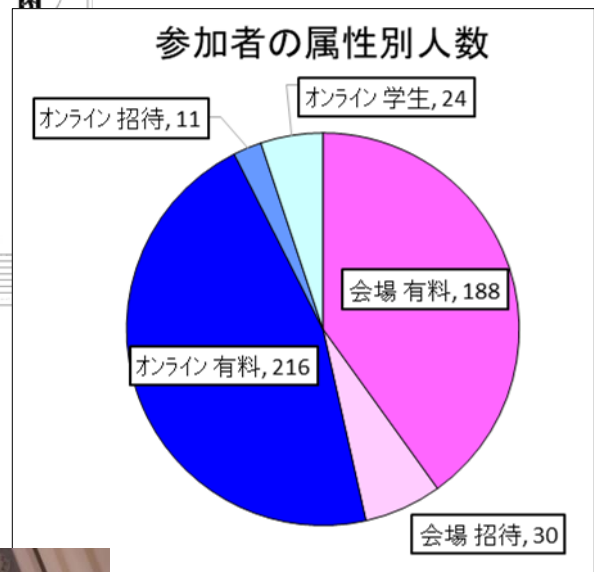


感染対策等について



感染症対策に万全を期すため、
座席を一つ飛ばしの市松模様を使い、
かつ全席指定席制とした。
(左図；青色の席のみ使用)

初めての試みとして、Zoomでの
ウェビナーを併催したところ、
参加者数の過半を超える 251 名の
申し込みがあった。(下、青色)



会場内では「ホール内は飲食禁止」、
「会話は控えめに」等を前方の
スクリーンとプラカードで
呼び掛けた(左)

交流会

コロナ禍で初めてとなる交流会を、日本教育会館9階の喜山倶楽部にて開催した。感染対策のため、料理や酒の提供は控えたが、会場参加者の8割を占める175名が参加し、講師や参加企業の間での交流を深めていただく事ができた。



武田 実行委員長（IHI 常務執行役員）
による開会挨拶（上）



来賓の経済産業省 製造産業局
国際プラント・インフラシステム・
水ビジネス推進室長の小川様による
ご挨拶（左）



エンジニアリングシンポジウム

地球を守り未来を創る エンジニアリング 2022

エンジニアリング功労者表彰プロジェクト 10:30～11:45

10:30～11:05	Petronas Floating LNG 2 プロジェクト 日揮グローバル株式会社、日本エネルギーソリューションズ、フジエレクトロニクス株式会社、ジェネラルマシーナリー 小澤 智樹
11:10～11:45	食品リサイクル発電による SDGs 達成への貢献 株式会社 J/Food フードリサイクル 代表取締役社長 陸山 佳秀
12:50	協会挨拶 山東 理二 (一般財団法人エンジニアリング協会 理事長)

講演 I 13:00～14:15

海洋空間の多面的な利用に向けて ～食料・エネルギー生産の展望～

東京大学 生産技術研究所 教授 **北澤 大輔**



講演 II 14:30～15:45

カーボンニュートラルの実現方策 ～水素、アンモニアの役割と今後の展開～

国際環境経済研究所 主席研究員
元内閣府戦略的イノベーション創造プログラム (SIP) エネルギーキャリア サブプログラムディレクター **塩沢 文朗**



講演 III 16:00～17:15

ヘルスケアの未来創造を目指す SHIONOGI の挑戦 ～感染症のリーディングカンパニーとして～

塩野義製薬株式会社 代表取締役会長兼社長 CEO **手代木 功**



交流会 17:30～18:30 同会館9階「喜山倶楽部」

開催日 **2022年10月19日(水)** ※新型コロナウイルス感染症対策を実施し開催いたします。

会場 **日本教育会館 一ツ橋ホール**
(会場参加とオンライン参加のハイブリット開催)

主催 一般財団法人エンジニアリング協会

後援 経済産業省

同時中継
オンライン配信

CPU・PDU
認定ポイント
取得可能

学生限定
無料ご招待

PRパンフレット

PRパンフレットの3ページ目に、感染症対策の周知と来場者自身の発熱チェックを徹底していただく事などにつき記載した(右下)

お申込みについて

会員の方 各社の連絡担当者へ「申込シート」を送付します。各社毎に会場参加者とオンライン参加者を別シートに記載し、シンポジウム事務局 (sympo-admin@ena.or.jp) 宛にお申込みください。

非会員の方 参加方法は「オンライン限定」となります。以下の協会のWebサイトよりお申込みください。
▶ <https://www.ena.or.jp/seminar/57190>



会場参加 **9,900円** (消費税別・交流会含む)

オンライン参加 **7,700円** (消費税別・交流会なし)

- ※ 会場参加者には「指定席」です。座席に限りがあるため、人数超過を行う場合があります。予めご了承ください。
- ※ 申し込み開始日に会場参加者の申し込みが終了する場合があります。申し込みは要予約です。開催当日は参加証をご持参ください。
- ※ 会場参加者には「指定席」です。座席に限りがあるため、人数超過を行う場合があります。予めご了承ください。
- ※ 申し込み開始日に会場参加者の申し込みが終了する場合があります。申し込みは要予約です。開催当日は参加証をご持参ください。

学生の方 オンライン参加限定で先着300名様を無料ご招待します。詳しくは協会Webサイト内「学生キャリア支援」をご確認ください。
▶ https://www.ena.or.jp/seminar_etc/57192



申込締切 **2022年9月27日(水) 17:00**まで (会場・オンライン共通)

- ※ 詳細により、譲渡および変更になる場合があります。
- ※ 本シンポジウム開催日の前夜(9月26日)の夜間開催となる場合は、オンラインのみの開催に変更します。「まん延防止等重点措置」が発出された場合は、会場参加者の交流会は中止します。
- ※ CPU、PDUの認定ポイントが取得できます。同日参加の場合 CPU：4.95ポイント、PDU：4.75PDU

会場のご案内

日本教育会館 一ツ橋ホール

〒101-0003 東京都千代田区一ツ橋 2-6-2

〇電車での来場

地下鉄有楽町線 東京メトロ半蔵門線	神保町駅 (A1出口 徒歩3分)
地下鉄有楽町線	神保町駅 (A9出口 徒歩5分)
東京メトロ東西線	竹橋駅 (15出口 徒歩5分) 丸の内線 (6番出口 徒歩7分)
JR総武線	水戸橋駅 (西口出口 徒歩15分)

〇車での来場

首都圏道路建設、代官前 北の丸インターチェンジ (駐車場はございません。)



お問い合わせ先

一般財団法人エンジニアリング協会
シンポジウム事務局

〒108-0041
東京都港区赤坂1-11-9 (RPRプレイス赤坂9階)
TEL 03-8441-2910 (代表)
E-mail: sympo-admin@ena.or.jp

新型コロナウイルス感染症対策とご参加の皆様へお願い

開催方法について

- ▶ 本シンポジウム開催日の10月19日を含み、東京都に緊急事態宣言が発出された場合は、会場開催を中止し、Zoomウェビナーでのオンラインのみの開催とします。
- その際は、会場参加者へ視聴登録リンクをお送りします。

会場参加者の皆様へ

- ▶ 下記の項目に該当する場合は、ご来場をご遠慮ください。

- 37.5℃以上(または平熱よりも1℃以上高い)の発熱
- 喉やのどの痛み、息苦しさや強いだるさなど、風邪の症状
- 咳、痰の性状
- 感染が疑われる身近な知人や家族、または感染症患者との濃厚接触

- ▶ 当日はマスクの着用をお願いします。

また、会場入りでの検温、手指の消毒、咳エチケット、三密の回避にご協力ください。
座席は「指定席」とし、席間隔を空けてお座りいただけます。
会場内での会話・飲食はお控えください。
館内の換気は法令等に基づいた必要換気量を十分に満たしています。



1. はじめに

42回目を迎えたエンジニアリングシンポジウムは会場とオンライン併用による初の試みとなりましたが、経済産業省をはじめ多くの関係者のご支援とご協力を賜り、成功裏に終えることができました。まずはご尽力いただきました関係各位に感謝を申し上げます。

今年は「地球を守り未来を創るエンジニアリング」というテーマのもと、会場とオンライン併用によるシンポジウム開催・久しぶりの懇親会開催など、この数年と異なる状況での開催でした。このような制約下での開催結果を取り纏めることは今後のエンジニアリングシンポジウムの運営において重要な提言となるとの認識に立ち、報告するものとなります。

東京大学 生産技術研究所 北澤教授の講演では養殖業の環境影響評価に加えて、洋上風力の環境アセス等のエンジニアリング産業におけるカーボンニュートラル社会の実現に向けたテーマに触れていただきました。島国日本におけるエンジニアリング産業における海洋資源の可能性を示唆いただいた講演でありました。

国際環境経済研究所 塩沢主席研究員からは内閣府戦略的イノベーション創造プログラム (SIP)にて、「エネルギーキャリア」での経験に裏打ちされたカーボンニュートラルの実現に向けた水素、アンモニアに期待される役割に触れていただき、現在脱炭素社会に向けて取り組んでいる参加者の皆様の一助となる興味深い解説をいただくことができました。

塩野義製薬株式会社 代表取締役会長の手代木 功様には感染症リーディングカンパニーになるまでの軌跡を実体験に照らし合わせ講演いただきました。今一度エンジニアリング産業に携わる一員としての心構えに立ち戻る機会となり、参加者にとっても印象深い講演になったと思います。

「エンジニアリング功労者賞」の受賞プロジェクトにつきましては、日本企業で初めてとなる洋上 LNG プラント建設に携わられた日揮グローバル株式会社 小澤 智樹様（エネルギーソリューションズ プロジェクトマネジメント本部 ジェネラルマネージャー）から「Petronas Floating LNG 2 プロジェクト」の取り組みを、Jバイオフードリサイクル株式会社 代表取締役社長である蔭山 佳秀様から、食品リサイクル率の向上と環境にやさしいエネルギーの両立を可能とする「食品リサイクル発電による SDGs 達成への貢献」について苦労談も交えてご紹介いただきました。まさに地球を守り未来を創るエンジニアリングという今回のテーマに沿った先進的な取り組みであり、エンジニアリングが貢献できる力を認識する機会となりました。

いずれもタイムリーかつ示唆に富んだ話題であり、ご参加いただいた皆様におかれましても大変有意義なものになったことと、確信しております。このように、「エンジニアリングシンポジウム2022」が盛大なシンポジウムになりましたのも、業界の皆様に加えシンポジウム委員会・事務局をはじめとする関係各位のご協力・ご支援の賜物であり、ここに改めて厚く御礼申し上げます。

2022年11月

一般財団法人エンジニアリング協会
エンジニアリングシンポジウム2022実行委員会委員長
武田 孝治

2. 事業内容

2-1 概要

名 称	: エンジニアリングシンポジウム2022
統一テーマ	: 地球を守り未来を創るエンジニアリング
会 期	: 2022年10月19日(水)
会 場	: (一財)日本教育会館、一ツ橋ホール
主 催	: 一般財団法人 エンジニアリング協会
後 援	: 経済産業省

2-2 基本計画

本年のシンポジウムの基本計画を以下のとおり設定した。

(1) 経緯と概要

エンジニアリングシンポジウムは、多業種に亘るエンジニアリング関係者が、年に一度一堂に会して交流する大イベントであり、この機会にエンジニアリング業界を取り巻くさまざまな課題とその対応について学び、また「会員相互間の情報共有の場」として情報交換するとともに、業界外に向けてエンジニアリング業界の存在意義等について「情報発信する場」としても活用するものである。

コロナ禍の下での本シンポジウム開催も2020年以来3回目となり、参加者から要望の多かったウェビナーでの同時開催を初めて取り入れることとした。その結果、参加者数が、昨年より100名の増加となった半面、過半数の250名余りがオンライン参加となり、会場での参加者数は昨年に比べて減少した。会場開催については過去2年間の経験を踏まえ、席を一つ飛びにして間隔を空けると共に、全席指定とする等、感染症対策に万全を期しての開催となった。

ウェビナー併催によって参加キャパシティが大きく拡大し、学生参加者をオンラインに限定して無償にて広く募集し、オンライン参加者に占める学生数は1割近くに達した。

また、開催要望の多かった交流会につき、感染予防の見地から食事やアルコールの提供は控えざるを得なかったものの、シンポジウム会場の上階にて3年ぶりに開催する事ができた。会場参加者の8割にのぼる方々が参加し、好評をいただいた。

その他、プロジェクトマネジメントの資格保持者のためのPDU、CPUの認定ポイント発給を再開し、多くの参加者から申し込みをいただいた。

2-3 プログラム

敬称略

【午前の部】	一ツ橋ホール(3F)
10:30 (35分) 11:05 (幕間)	【エンジニアリング功労者表彰プロジェクト】 1. 国際貢献; Petronas Floating LNG 2 プロジェクト 日揮グローバル(株) エネルギーソリューションズ プロジェクトマネジメント本部 ジェネラルマネージャー 小澤 智樹
11:10 (35分) 11:45	2. エンジニアリング振興 食品リサイクル発電による SDGs 達成への貢献 (株)Jバイオフードリサイクル 代表取締役社長 蔭山 佳秀
(65分)	昼休み
【午後の部】	一ツ橋ホール(3F)
12:50	【協会挨拶】 山東 理二 一般財団法人エンジニアリング協会 理事長
13:00 (75分) 14:15	【講演Ⅰ】 海洋空間の多面的な利用に向けて ～食料・エネルギー生産の展望～ 東京大学 生産技術研究所 教授 北澤 大輔
(15分)	休憩
14:30 (75分) 15:45	【講演Ⅱ】 カーボンニュートラルの実現方策 ～水素、アンモニアの役割と今後の展開～ 国際環境経済研究所主席研究員、 元内閣府戦略的イノベーション創造プログラム(SIP) 「エネルギーキャリア」サブ・プログラムディレクター 塩沢 文朗
(15分)	休憩
16:00 (75分) 17:15	【講演Ⅲ】 ヘルスケアの未来創造を目指す SHIONOGI の挑戦 ～感染症のリーディングカンパニーとして～ 塩野義製薬(株) 代表取締役会長兼社長 CEO 手代木 功
	移動(9階、喜山倶楽部へ)
17:30 (60分) 18:30	交流会

2-4 コロナ対策

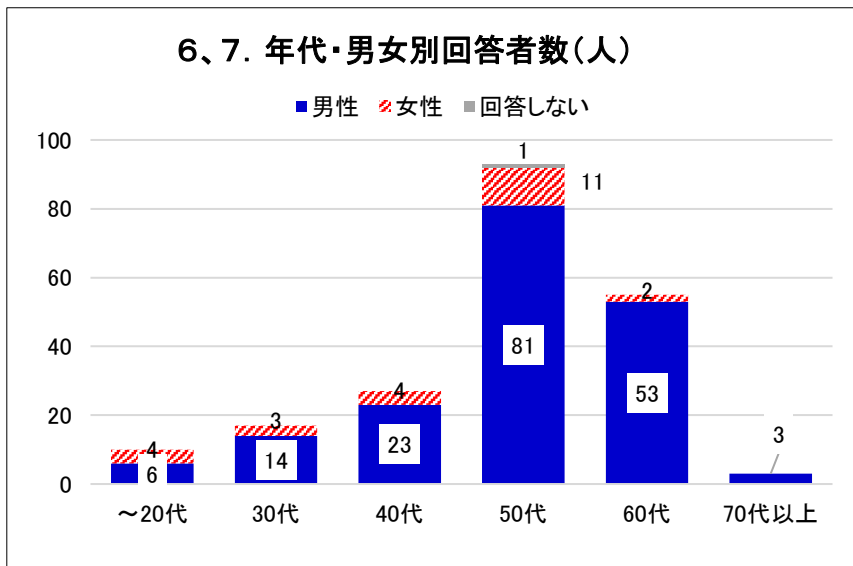
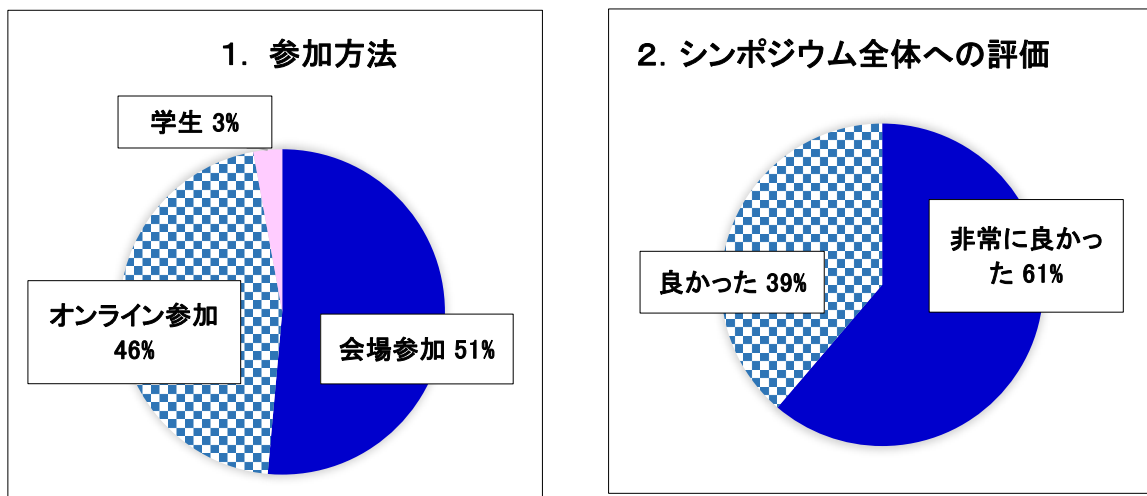
コロナウィルス感染予防対策のために以下の対策を取った。

- ① 会場開催と並行し、Zoom ウェビナーによる参加形態を選択できるようにした。
- ② 会場内の密を避けるため、一ツ橋ホールの座席を一つ飛びで半数以下の人数に制限した他、万一感染者が出た場合に濃厚接触者を特定できる様、全席指定席制とした。（図面P. 4）
- ③ PRパンフレットに1ページ追加し、感染症対策の周知と来場者自身の発熱チェックを徹底していただく事などにつき万全を期した。（P. 6参照）
- ④ 会館入口に来場者が自身の体温をチェックできるサーモグラフィーを設置した。（写真P. 3）
- ⑤ 各講演前の休憩時間に、司会から新型コロナウイルス感染防止のためお願いとして、会場内でのマスク着用や、休憩時間においても不要な会話をお控えいただきたい事、会場内での飲食は禁止、ホール内には飲み物などを持ち込まない事、感染防止のために指定された座席から移動しない事などをアナウンスした。（P. 4）
- ⑥ 講師控え室での接茶はペットボトルと紙コップとした。
- ⑦ 講演終了毎に講師演台、マイク等の消毒を徹底した。
- ⑧ 質疑応答時のマイクにつき、質問者が変わるたびにマイクを都度消毒した。
- ⑨ 講師と関係者との昼食会を開催しない事とした。
- ⑩ 午後の講演前の休憩時間に例年実施していたコーヒーサービスを行わない事とした。
- ⑪ 講演会後の交流会につき、料理や酒を提供しない事とした。

※ シンポジウム終了後、参加者がコロナウィルスに感染したとの連絡や報告はありません。

3 来場者アンケート集計結果

全体で210名からの回答を得ることができた。主要な回答を以下にグラフで示す。



1. 参加方法につき、アンケートでは会場参加が51%だが、登録ベースではオンラインが過半数を占めた(P.4 グラフ参照)
2. シンポジウム全体への評価は「良かった」以上が100%を占めた。
3. 年代別・男女別では、昨年に比べて40代の回答者が倍増し、女性も5割の増加となった。
4. オンラインを併催した事は総じて好評であり、コロナ終息後も継続を希望する声が寄せられた。

以上